盛岡第四高等学校　学校報

シルバーリーフの風

Ｎｏ．２
令和４年６月６日発行
岩手県立盛岡第四高等学校
担当　副校長　大石　敦子
ホームページにも掲載しています

高総体、飛躍に向けた志高生の挑戦！

テニス部　女子二連覇！男子準優勝！

令和４年度の高総体が開催され、前期日程と中心会期日程が終了しました。生徒たちはこれまでの練習の成果を存分に発揮し、自分のベストパフォーマンスに挑戦しました。３年生にとっては、一つの区切りとなる大会でした。高総体に参加した生徒たちの思いを掲載します。

テニス部女子（団体優勝）　佐々木怜さん

２大会連続１９度目の優勝をすることができ、とても嬉しく思います。このコロナ禍で高総体を開催するにあたって支えてくださった方々に感謝しています。私たちは、絶対に優勝するという強い気持ちを持って練習に取り組んできました。チーム一丸となって、一人一人が自分の最大限のプレーをすることを心がけ試合に臨みました。それぞれが自分の持ち味を生かし、有利に試合を展開することができたと思います。今後はインターハイに向けて質の高い練習を重ね、チーム全員が熱いハートを持ち勝利に向かって邁進します。

テニス部男子（団体準優勝）　豊田悠真さん

毎回、私たち男子テニス部は東北大会への切符をあと少しのところでのがしてきました。だから、全員が今回こそは勝ちたいと思い臨んだ、気持ちの入った大会だったと思います。私自身、緊張とプレッシャーで中々思うようなプレーができなかったけれど、後輩たちがすばらしい活躍をしてくれて見事準優勝という結果を残すことができました。後輩たちには来年の大会もがんばってほしいと思います。

卓球部男子（団体ベスト１６）佐々木温人さん

目標であった県大会ベスト８まであと１勝でしたが、個人の県大会出場者がいない中、このような成績が取れたことを誇りに思っています。実力的に勝てそうにない相手であっても、食らいついて自分らしいプレーをしたら、負けてしまったとしてもチームのムードが上がり、勝ちに近づきます。ムードを考えて試合をしたからの結果だ

と思います。しかし、目標まであと一歩届かなかったことに悔いはあります。１・２年生には、より質の高い練習をし、悔いの残らないように日々の練習に取り組んでください。

卓球部女子（団体１回戦）　齋藤心陽さん

団体戦では初戦から強い選手がいる学校と対戦しました。結果的には負けてしまいましたが、相手に圧倒されることなく、自分たちの技術が相手に通用していたときもたくさんありました。また、選手だけでなく、応援の人も含めて全員の心が一つとなって戦えた良い試合だったと思います。個人戦では、結果は様々ですが、全員最後まで諦めずにプレーできていました。今回の大会では、改めて団体戦の楽しさや仲間と一体となって戦うことの価値を感じることができました。今までお世話になった顧問の先生やコーチ、支えてくれた保護者の方々や仲間への感謝の気持ちでいっぱいです。

バドミントン男子（団体ベスト８）　狩野良太さん

高総体を終えて、まず最初に思ったことは、このメンバーで最後まで戦うことができてよかったということです。今年は多くの部員が地区大会に参加できず、この県の団体戦１つに懸けてきました。団体戦では、メンバー全員が勝利を目指し一生懸命戦いました。その中で、あと数点で勝つことができたが負けてしまった、という試合が多く、それがベスト８止まりの実力であり、県大会の厳しさと自分たちの実力不足を改めて感じました。後輩には、この経験を糧に練習し、自分たちが成し遂げることができなかったベスト４を目指して頑張ってほしいです。

バドミントン部女子（団体ベスト１６）　永畠朋華さん

今年の県高総体は、地区予選に出場できなかったため団体戦のみの出場となってしまいました。三年生にとっては最後の大会だったのでとても悔しい思いはありましたが、くじけずお互い励まし合って最後まで練習をすることができました。最後の県大会では仲間との絆を信じて楽しく試合ができたと思います。コロナ禍で思うように練習ができずつらい日々もありましたが、勝ちたいという強い気持ちを持って活動できたので良かったです。今までみんなで活動できたことは最高の思い出です。後輩たちが、今後、たくさん活躍することを願っています。今までありがとうございました。

バレーボール男子（２回戦）　竹内碧渚さん

私たち男子バレーボール部３年生は、２年前部活動を始めた時には全員初心者でした。その時から一瞬のうちに２年がたち、多くの１・２年生が入部してくれました。そんな自分たちはどこまでいけるのかという気持ちを持って、高総体に臨みました。そして迎えた本番では、みんなで声を出し、諦めずにボールを繋ぎ続け、今まで練習してきた色々な攻撃を使って、常に自分たちの雰囲気の中で戦うことができました。二回戦で負けてしまい悔しさもありますが、しっかりと戦い切ることができて本当に楽しい高総体でした。これからも１・２年生には常に声を出して、自分たちの雰囲気を大切にして、プレーしている自分たちもそのプレーを見ている人たちも楽しい気持ちになるようなバレーボールをしていってほしいです。どんな時も絶対に諦めずにどんどん上を目指して頑張ってください。

バレーボール女子（１回戦）　伊藤里桜さん

私たちは一関一高と戦い、セットカウント０対２で負け、３年生は引退となりました。結果としてはとても悔しいですが、約２年間、支え合いながら苦しみを乗り越えて頑張ってきた仲間と同じコートでプレーできたことが幸せでした。コロナ禍での部活動は、制限されることが多く、思うように練習ができず、モチベーションを保つことが難しい時期もありましたが、みんなで話し合い、主体的に部活動に取り組むことで、充実した部活動ができたと思います。さまざまな面で支えてくださった、先生、コーチ、家族、先輩に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました、部活動で学んだことや経験を生かして進路実現に向けて頑張っていきたいと思います。

柔道部男子（個人戦）　小田島力輝さん

私は新人大会を経て高総体に参加してきました。他校のとの練習も満足に出来ず、実践練習の不足、さらに足のけがで、少し不安が残ったままでの試合となりました。一回戦は不戦勝、二回戦目からの試合でした。相手は３年生、しかもその高校の主将。私は武者震いをしました。「この人に勝てば一皮むける」と。商業の先輩に見送られ、試合開始。結果は負けました。惜しいところもありましたが、体力が持ちませんでした。練習量、そして気合の差だと思います。次は１．２年生大会。体力を向上させ、さらに技に磨きをかけ、気合を入れ、次の大会では入賞し、新人戦に備えようと思います。

※　高総体特集は、次回も続きます。